

4年ぶりに通常規模での開催

美郷町ラベンダーまつり

4年ぶりに通常開催となった「美郷町ラベンダーまつり」は、6月10日から7月2日にかけて多くの来場者でにぎわいました。ことしはラベンダー育成環境整備により一部マリーゴールドを植えていたため、紫と白のコントラストにオレンジとイエローが加わった、例年よりカラフルなラベンダー園となりました。また、期間中はご当地キャラクターが集まるイベントや自衛隊車両の展示が行われたほか、飲食店の出店やラベンダーの摘み取り体験、フリーマーケットなども行われました。



◀左からニャジロウ、与次郎、こあぴよん、美郷のミズモ

水の大切さを学ぶ

七滝「水の森」植樹事業

水資源を育む森林の役割を学ぶ「七滝『水の森』植樹事業」が、6月21日に六郷東根地区の七滝山で行われ、町内の各小学校4年生や町議会議員、秋田県仙北地域振興局の職員など合わせて約190名が参加し、ブナの苗木200本を植樹しました。

仙北東森林組合の職員が植樹のお手本を見せ、その後児童たちが植樹を行いました。戸惑いながらも協力し合い、苗木を植樹する児童たちの姿が見られました。



時代の変化と香りのあり方

美郷カレッジ

「美郷カレッジ」が6月24日に美郷町公民館で開催されました。今年度初回となる今回は、美郷雪華ルームフレグランスの香りデザイン等を手掛けた、フレグランスデザイナーである中田邦子氏を講師に迎えました。

中田氏は「香りが受け継がれてきた理由～香史を紐解く～」と題して講演し、「香りは神への供物として特別なものだったが、現在は自らが幸福や健康になるためのものに変化している」「肉体的・精神的・社会的にすべて満たされている状態(well-being)になる香りが求められているが、それは人によって違うため、多種多様な香りが出てきている」と話しました。ほかに、美郷雪華ルームフレグランスの制作工程や特長を紹介しました。



■中田邦子氏

ヨネックス特別協力

バドミントン教室

美郷町と包括連携協定を締結しているヨネックス株式会社の特別協力のもと「バドミントン教室」が7月8日に美郷町総合体育館リリオスで開催されました。講師には梅野尾昌一氏、梅野尾悦子氏、小笠原末結氏、北都銀行バドミントン部の皆さんの計12名を迎えました。当日は午前の部に美郷町バドミントンスポーツ少年団員とその保護者合わせて92名が、午後の部に美郷中学校バドミントン部40名がそれぞれ参加しました。参加者は講師からフットワークやラケットの振り方など基本動作を教わったほか、講師とのミニゲーム等実践形式での練習も行いました。

教室終了後、参加した児童・生徒からは「基礎の大切さを教わった、このことを日々の練習から意識したい」といった感想が聞かれました。



貴重な映像資料を上映

美郷カレッジ

映画監督のマーティ・グロス氏を講師に迎えた今年度2回目の「美郷カレッジ」が、7月9日に美郷町公民館で開催されました。マーティ氏は、自らの映像作品を制作するほか、民藝運動に関する国内外の映像の調査、発掘、デジタル化、修復、新規編集などを行っており、完成した「民藝フィルムアーカイブ」は貴重な映像資料として世界各地のイベントや美術館で上映されています。この日は、「受け継がれた知識と技術をフィルムに刻み、繋ぐ『Capturing inherited craft knowledge on film』」と題し、小鹿田焼(大分県)の作陶工程やわらを用いた陶器の荷造り作業、空襲で焼失する前の名古屋城などの貴重な映像が上映されました。

MISATOPICS

町の話



こども園ブルーベリー収穫体験

町内の各認定こども園4歳児によるブルーベリー収穫体験が、六郷わくわく園および仙南すこやか園は7月10日に、千畑なかよし園は7月13日にそれぞれ黒川農園で行われました。

農園を駆け回り収穫を始めた園児は、教わったとおり食べごろの実を見分け、おいしそうにブルーベリーを頬張っていました。参加した園児からは「甘くておいしい」「家族とまた来る」といった声が聞かれました。



「何かを得れば何かを失う」のが世の常ですが、「何かを経験すれば何かを得る」のも世の常でしょうか。先月初め、私は還暦同期会に出席しました。そうしたところ、満60歳にはまだひと月あるものの、気分はもう満60歳。気分的に一つ、歳を得ました（笑）。

その先月、町では4年ぶりに従前とほぼ同じ内容でラベンダーまつりを開催し、無事に終えることができました。おかげ様で期間中は多くの方々からご来園いただくとともに、新たな取り組みとしてJR大曲駅からの乗合タクシーを試験運行することもできました。足を運びやすい仕組み構築がテーマで、コロナをきっかけにスタートしている補助制度ですので、経験

推し活

COLUMN WINDS

コラム

風

美郷町長
松田知己

したからこそ得た取り組みということになるのかもしれませんが。関係各位にお礼を申し上げます。さて、お祭り終了後のラベンダーですが、例年、然るべき時期に刈り取りを行います。刈り取った物のうち、利活用したい一部は精油と水分に分離抽出し、残りは欲しい方に売却しております。町オリジナル品種の美郷雪華については、町の連携企業を中心に売却しているところですが、その美郷雪華、化粧品OEMメーカーの研究で、抗酸化活性のある成分が含まれていて、シミとシワの抑制効果を期待できることが判明しました。美郷雪華は以前の分析で、リラックス効果のほか集中力を高める成分も含有されていることが

分かっておりますので、ますます面白い品種になってきました。そしてその利活用ですが、抽出した水分は「ルームフレグランス」として商品化されている一方、抽出量の少ない精油は実はそのまま冷蔵保管してきております。この度、ますます面白い品種であることが分かりましたので、美郷町のPRのため、今後は精油も利活用を検討していこうと思います。その意味で、美郷雪華は「研究」という経験で「価値の向上」を得たこととなります。なお、精油は本当に少量ですので、どのような形で販売できるか、鋭意検討中です。

「推し活」。最近のはやり言葉です。存在価値が向上した美郷雪華、アロマや美容分野の推し活対象になることを願いたい私です。



▲美郷カレッジであいさつをする松田町長